

- 1) 正しい記載を一つ選べ。
- A. 右腎が左腎より高い。
 - B. 左精巣静脈は直接下大静脈に流入する。
 - C. 左副腎静脈は直接下大静脈に流入する。
 - D. 腎莖部は前面から腎静脈、尿管、腎動脈の順である。
 - E. 腹部大動脈と上腸間膜動脈を左腎静脈が走っている。
- 2) 正しい記載を1つ選べ。
- A. KUBのUは尿道を示す。
 - B. IVPのPは前立腺を示す。
 - C. TURのUは尿道を示す。
 - D. ESWLのEは内視鏡を示す。
 - E. GFRのRは腎を示す。
- 3) 腎莖部での動脈(A)、静脈(V)、尿管(U)の位置関係について腹部から正しい順に並べよ。
(本当は選択肢、A、V、Uの並び替えられたものが並んでいた)
- 4) 完全重複尿管に合併する可能性の高いものを2つ選べ。
- A. 上半腎の逆流と下半腎への尿管開口異常
 - B. 重複尿管両方の異所開口
 - C. 重複尿管両方の逆流
 - D. 下半腎の逆流と上半腎への尿管開口部異常
 - E. 尿失禁
- 5) 65才女性、1ヶ月前より排尿終末時痛、頻尿が有り近医にて膀胱炎と診断され、抗生剤を処方されたが、効果が見られないため、2週間後再受診となった。尿検査で比重1.020、糖(+)、タンパク質(+)、白血球1~2/hPF、赤血球20~30/hPF、扁平上皮細胞2~3/hPFであった。最も行うのにふさわしい検査は以下のどれか。
- A. 尿中結核菌培養
 - B. 腎生検
 - C. 尿細胞診
 - D. 腎・膀胱超音波検査
 - E. 逆行性尿路造影
- 6) 褐色細胞腫について正しいものを2つ選べ。
- A. 20%が悪性である。
 - B. 低K+血症を伴う高血圧症が主症状である。
 - C. 原発性アノレドステロン症を合併しやすい。
 - D. 高血圧の治療には α 遮断薬を用いる。
 - E. MIBGシンチを取る。
- 7) 副腎皮質腺腫によるCushing症候群について誤っているものを1つ選べ。
- A. デキサメサゾン抑制試験で血中コルチゾールは抑制されない。
 - B. ACTH、コルチゾールは朝低く、夜高い日差変動が有る。
 - C. インスリン拮抗作用による耐糖能の低下を来す。
 - D. 副腎腺腫摘出後、ホルモン療法を行う。

- 8) 原発性アルドステロン症で間違っているものを1つ選べ。
- A. 低 K⁺血症
 - B. 比較的高 Na⁺血症
 - C. 高血圧
 - D. アシドーシス
 - E. 夜間多尿
- 9) 腎細胞癌について正しいものを2つ選べ。
- A. 初診時に転移しているものは約 5%である
 - B. 遠隔転移は骨・肺・脳の順である
 - C. 検診で偶然発見されることが多い
 - D. 血尿がほとんどの例で見られる
 - E. 最近 10 年間、罹患率は増加傾向である。
- 10) 腎細胞癌に対する手術療法について正しいものを1つ選べ。
- A. 腎細胞癌の手術では術後の副腎機能の低下を防ぐために患側副腎を温存する。
 - B. 腎部分切除後の局所再発は約 30%の症例で観察される。
 - C. 根治的腎摘除術では、病変の血行性播種を防ぐために、腎動脈より先に腎静脈を結紮する。
 - D. リンパ節郭清は臨床的意義が乏しい。
 - E. 腎の温阻血時間が 60 分以内であれば、患側腎に高度の機能障害はもたらされない。
- 11) 腎盂尿管腫瘍について、正しいものを2つ選べ。
- A. 症状は血尿が代表的である。
 - B. 尿管腫瘍の発生は、尿管を上部・中部・下部に分けた場合、下部尿管での頻度が最も高い
 - C. 腎盂尿管癌に膀胱癌が合併する頻度は約 10%である。
 - D. フェナセチンを含む鎮痛剤は、腎盂扁平上皮癌 の発生危険因子である。
 - E. 膀胱癌と異なり、職業に関する危険因子は無い
- 12) 膀胱癌について、正しいものを1つ選べ。
- A. 尿細胞診の有用性は低い。
 - B. 筋層への腫瘍浸潤の診断には MRI が適している。
 - C. 表在性腫瘍の基本は抗癌剤膀胱内注入である。
 - D. CIS の予後は乳頭表在性腫瘍の予後より良い。
 - E. Hautmann 式代用膀胱造設の際には上行結腸を利用する。
- 13) 膀胱癌について、正しい組み合わせを1つ選べ。
- 1. 膀胱上皮癌の治療法としては、BCG を膀胱内に注入する方法が知られている。
 - 2. 無症候性肉眼的血尿は、排尿痛は無く肉眼で確認できない血尿の事である。
 - 3. 膿尿は尿中に白血球が混入したものである
 - 4. 表在性膀胱癌に対しては膀胱保存的手術が第一選択である。
- A. 全て
 - B. 1、3、4
 - C. 1、2、4
 - D. 1、2、3
 - E. 2、3、4

- 14) 前立腺癌について、誤っている記述を1つ選べ。
- A. 臨床癌とは、臨床的に前立腺癌と診断され、組織診で前立腺癌を支持する所見が見られる癌の事である。
 - B. オカルト癌とは、転移性悪性腫瘍の発見に伴う原発巣検査で原発巣を見つけることが出来ず、後に別の検査で・前立腺癌が原発巣として発見された場合の事である
 - C. 偶発癌とは、非悪性腫瘍を切除した際の生検によって偶発的に発見された癌である。
 - D. ラテント癌は生前に前立腺癌の所見を認めず、死後の剖検などによって前立腺癌が発見された症例である。
 - E. ラテント癌、偶発癌は共に微小癌である。
- 15) 前立腺癌について、正しい記述を1つ選べ。
- A. PSA は特異的な腫瘍マーカーである
 - B.
 - C.
 - D.
- 16) 前立腺癌の放射線療法について誤っているものを1つ選べ。
- A. 早期癌には根治療法として用いられる。
 - B. 骨転移の骨痛に対し有効である。
 - C. 重粒子線療法が有効である。
 - D. Brachy therapy とは焦点を狭めた外照射である。
 - E. 周囲臓器への照射を考慮し、治療計画を立てることが大切である。
- 17) AFP 値が上昇しない精巣腫瘍を 2つ選びなさい。
- A. セミノーマ
 - B. 胎児性癌
 - C. 奇形種
 - D. 絨毛癌
 - E. 卵黄嚢腫瘍
- 18) 精巣腫瘍について正しいものを 2つ選びなさい。
- A. 進行すると造骨性の骨転移を来す。
 - B. PSA は特異的な検査方法である。
 - C. 生検は確定診断として有用である。
 - D. 20~30 代は好発する。
 - E. 卵黄嚢腫瘍ではβ-hCG が上昇する
 - F. 化学療法に対して感受性が高い
- 19) カテーテルや採尿用袋を使用しなくても良いものを1つ選びなさい。
- A. 腎瘻
 - B. 尿管皮膚瘻
 - C. 膀胱瘻
 - D. 回腸導管
 - E. 新膀胱造設
- 20) 我が国の透析医療の特徴について正しいものを 2つ選べ。
- A. CKD の原因として、糖尿病が1位である。
 - B. 高齢者が多い
 - C. 長期透析患者数の占める割合が低い
 - D. 透析腎癌の発生は少ない
 - E. 異所性石灰化は少ない

- 21) 腎移植について誤っているものを1つ選べ。
- A. 受腎者をドナーと言う
 - B.
 - C. 献体腎が生体腎よりも圧倒的に多い。
 - D. ABO 血液型不適合の場合も移植は可能である
 - E. 移植前に HLA 抗原適合検査を行う
- 22) 結石の成因として誤っているものを1つ選びなさい。
- A. 副甲状腺機能亢進症
 - B. Cushing 症候群
 - C. ビタミン D 過剰
 - D. 尿路感染症
 - E. 原発性アルドステロン症
- 23) 尿路感染症の起炎菌として不適當なものを1つ選びなさい。
- A. 大腸菌
 - B. 腸球菌
 - C. 肺炎桿菌
 - D. 緑膿菌
 - E. 乳酸菌
- 24) 急性腎盂腎炎について正しいものを1つ選びなさい。
- A. 急性単純性腎盂腎炎は高齢の女性に多い。
 - B. 起炎菌は肺炎桿菌である。
 - C. 小児では消化器症状（嘔吐、腹部膨満感）を起こすことがある。
 - D. 水腎症や結石を合併して重症の急性増悪（上部尿路閉塞）の場合、多めの内服抗生剤を投与する。
 - E. 末梢白血球の増加、核の左方移動、CRP 陰性となる。
- 25) 18 年前、子宮全摘手術を行った女性が、持続的な尿失禁を訴え受診。適切な検査を選びなさい。
- A. チェーン造影
 - B. 残尿量測定
 - C. 排尿時膀胱尿管造影
 - D. 膀胱内圧測定
 - E. 経静脈的膀胱造影
- 26) IPSS の評価項目に含まれない下部尿路障害を一つ選びなさい。
- A. 残尿感
 - B. 排尿痛
 - C. 腹圧排尿
 - D. 尿線途絶
 - E. 夜間頻尿
- 27) 前立腺肥大症について正しいものを1つ選べ。
- A. PSA は一般的に正常である
 - B. 直腸診で石様硬を来す
 - C. 風邪薬は症状を軽快させる
 - D. 外科的手術法としては恥骨後式前立腺摘除術がある

- 28) 尿失禁について正しいものを1つ選べ。
- A. 咳によって引き起こされるものを溢流性尿失禁と呼ぶ
 - B. 子宮癌根治術の後には腹圧性尿失禁が起りやすくなる
 - C. 尿管性尿失禁は、尿管の異所開口によって引き起こされる。
 - D. 精神的な負担によって引き起こされる尿失禁を stress incontinenace という
 - E. 切迫性尿失禁の治療にはα1拮抗薬を用いる
- 29) 急性尿閉に対して、導尿出来なかった場合の処置として最も適当なものを選べ。
- A. 補液
 - B. 利尿剤投与
 - C. 下腹部圧迫
 - D. 経腹的膀胱穿刺
 - E. 経皮的腎瘻造設
- 30) 腎損傷について正しいものを2つ選べ。
- A. 肉眼的血尿の度合と外傷の重傷度は必ずしも一致しない
 - B. 高血圧を来すことがある
 - C. 外科的手術には腰部斜切開が望ましい
 - D. 腹部CTは診断に有用である
- 31) 淋菌感染症について正しいのはどれか。
- a. 潜伏期間は10～14日である。
 - b. 淋菌はグラム陽性双球菌である。
 - c. 膀胱炎として発症することが多い。
 - d. クラミジアとの混合感染が90%にみられる。
 - e. ニューキノロン系抗菌薬に対する耐性株が増加している。
- 32) 男性不妊症の原因と対応の組合せで正しいのはどれか。
- a. 射精障害－テストステロン補充療法
 - b. 精索静脈瘤－精路再建術
 - c. 閉塞性無精子症－ゴナドトロピン補充療法
 - d. 非閉塞性無精子症－精巣内精子採取術
 - e. 低ゴナドトロピン性性腺機能低下症－人工授精
- 33) 精子形成のために Sertoli 細胞に直接作用するホルモンはどれか。2つ選べ。
- a. ACTH
 - b. FSH
 - c. GnRH
 - d. LH
 - e. テストステロン
- 34) 直腸指診で前立腺癌を疑う所見はどれか。
- a. 圧痛
 - b. 石様硬
 - c. 弾性硬
 - d. 血液付着
 - e. 表面平滑

- 35) 男性の尿路クラミジア感染の検査として最も適切なのはどれか。
- 尿沈渣
 - 精液検査
 - 尿の PCR 法
 - 血液培養検査
 - 尿の Gram 染色
- 36) ヒトパピローマウイルスが原因となる疾患はどれか。
- 軟性下疳
 - 精巣上体炎
 - 亀頭包皮炎
 - 非淋菌性尿道炎
 - 尖圭コンジローマ
- 37) 前立腺癌の原発巣に対して根治的放射線療法として行われるのはどれか。 2つ選べ。
- 腔内照射
 - 組織内照射
 - 電子線治療
 - 強度変調放射線治療
 - 放射性同位元素内用療法
- 38) 無尿をきたすのはどれか。
- 大腸癌
 - 膀胱癌
 - 子宮筋腫
 - 前立腺肥大症
 - 両側尿管結石
- 39) 尿路の機能について 誤っているのはどれか。
- 尿管は蠕動運動で尿を輸送する。
 - 陰部神経は蓄尿に関与する。
 - 閉鎖神経は排尿に関与する。
 - 前立腺には $\alpha 1$ 受容体が分布する。
 - 外尿道括約筋は随意筋である。
- 40) 疾患と検査法の組合せで 有用性が低いのはどれか。
- 腎腫瘍—腹部造影 CT
 - 尿管腫瘍—静脈性尿路造影
 - 膀胱尿管逆流—尿管鏡検査
 - 間質性膀胱炎—膀胱鏡検査
 - 前立腺腫瘍—経直腸超音波ガイド下生検
- 41) 発熱を 伴わないのはどれか。
- 腎膿瘍
 - 急性腎盂腎炎
 - 急性膀胱炎
 - 急性前立腺炎
 - 急性精巣上体炎

42) 過活動膀胱の症状はどれか。 2つ選べ。

- a. 頻尿
- b. 血尿
- c. 排尿痛
- d. 尿意切迫感
- e. 腹圧性尿失禁

43) 経尿道的手術の適応とならないのはどれか。

- a. 尿管結石
- b. 膀胱結石
- c. 膀胱癌
- d. 前立腺肥大症
- e. 前立腺癌

44) 排尿障害の診断で、まず行うのはどれか。

- a. 遺伝子検査
- b. 神経伝導検査
- c. 膀胱内視鏡検査
- d. 腹部超音波検査
- e. 腹部 X 線撮影

45) 61 歳の女性。尿失禁を主訴に来院した。3 年前から遺伝性脊髄小脳変性症で治療を受けている。2 か月前から突然の尿意を伴わない尿失禁が出現したため受診した。くしゃみでは尿は漏れない。意識は清明。構音障害、協調運動障害および失調性歩行がある。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。尿所見：蛋白（－）、糖（－）、沈渣に赤血球 1～4 個/1 視野、白血球 1～4 個/1 視野。腹部超音波検査で残尿を認めない。

考えられる尿失禁の種類はどれか。

- a. 溢流性
- b. 機能性
- c. 切迫性
- d. 反射性
- e. 腹圧性

45') 52 歳の女性。尿失禁を主訴に来院した。笑ったときや咳・くしゃみをしたときに尿が漏れるが、尿意を感じてからトイレに向かっても間に合うという。排尿困難や夜間頻尿を認めない。

この患者の尿失禁について可能性が高いのはどれか。

- a 溢流性
- b 機能性
- c 混合性
- d 切迫性
- e 腹圧性

46) 前立腺肥大症でみられないのはどれか。

- a. 残尿感
- b. 夜間頻尿
- c. 尿線途絶
- d. 排尿後尿滴下
- e. 腹圧性尿失禁

47) 尿路結石症の危険因子はどれか。 3つ選べ。

- a. 糖尿病
- b. 長期臥床
- c. 悪性腎硬化症
- d. Cushing 症候群
- e. 尿細管性アシドーシス

48) 頻尿の原因で誤っているのはどれか。

- a. 尿崩症
- b. 肥満症
- c. 膀胱炎
- d. 糖尿病
- e. 前立腺肥大症

49) 45歳の男性。人間ドックで右腎の腫瘍を指摘されて来院した。1か月前の人間ドックの超音波検査で右腎に直径3cmの腫瘍を指摘された。自覚症状はない。体温36.3度。血圧138/82mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、沈渣にRBC 1~4/1視野、WBC 1~4/1視野。血液所見：RBC 440万、Hb 14.8g/dL、Ht 41%、WBC 4600、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白7.3g/dL、アルブミン3.9g/dL、総ビリルビン1.0mg/dL、AST 38 IU/L、ALT 32 IU/L、LD 216 IU/L (基準176~353)、 γ -GTP 38 IU/L (基準8~50)、尿素窒素14mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、尿酸6.3mg/dL、血糖82mg/dL、Na 139mEq/L、K 4.6mEq/L、Cl 106mEq/L。CRP 0.2mg/dL。腹部造影CTで早期に染まり、wash outしている腫瘍があった。

考えられる疾患はどれか。

- a. 単純腎嚢胞
- b. 腎血管脂肪腫
- c. 腎細胞癌
- d. 淡明細胞癌
- e. 嫌染色性癌

50) 上記の疾患の治療として適切なのはどれか。

- a. 免疫療法
- b. 放射線治療
- c. 抗癌化学療法
- d. 分子標的薬投与
- e. 根治的右腎摘除術

51) 65歳の男性。血尿を主訴に来院した。3か月前から時々血尿を自覚していたが、自然に消失していたため医療機関を受診していなかった。2日前から血尿が持続するため受診した。喫煙は20本/日を45年間。飲酒はビール350mL/日を20年間。身長165cm、体重90kg。血圧160/100mmHg。尿沈渣に赤血球多数/1視野、白血球5~10/1視野。尿細胞診はクラスV。脊髄くも膜下麻酔下で経尿道的膀胱腫瘍切除を行った。病理所見では尿路上皮癌pTaと上皮内癌とを認める。術後1か月目に施行した尿細胞診でもクラスVであった。

この患者の治療として適切なのはどれか。

- a. 膀胱全摘術
- b. 放射線療法
- c. 抗癌化学療法
- d. 分子標的薬投与
- e. BCG膀胱内注入療法

52) 25歳の男性。陰嚢腫大を主訴に来院した。6か月前から陰嚢内に硬結を自覚していたが痛みがないため医療機関を受診していなかった。1か月前から陰嚢内の硬結が腫大してきたため受診した。右精巣は鶏卵大に腫大し圧痛は認めない。陰嚢部超音波検査で右精巣は内部不均一である。胸腹部造影CTで明らかな異常所見を認めない。血液生化学所見：LD 224 IU/L (基準 176~353)、hCG 0.3 mIU/mL (基準 0.7 以下)、 α -フェトプロテイン (AFP) 8 ng/mL (基準 20 以下)。右精巣腫瘍と診断し右高位精巣摘除術を施行した。今後の治療方針として無治療経過観察を選択した。

経過観察中に転移再発が生じやすい部位はどれか。

- a. 骨盤リンパ節と脳
- b. 後腹膜リンパ節と脳
- c. 後腹膜リンパ節と肺
- d. 鼠径部リンパ節と肺
- e. 鼠径部リンパ節と骨

53) 51歳の男性。左の下腹部から側腹部にかけての痛みを主訴に来院した。昨日、仕事中に左背部に軽度の痛みが出現したが30分ほどで軽快した。本日午前8時ごろ、出勤途中の電車の中で、突然、左の下腹部から側腹部にかけての強い痛みが出現したため受診した。来院の途中に悪心と嘔吐があった。意識は清明。体温 36.3°C。血圧 158/94 mmHg。顔色は蒼白で冷汗を認める。腹部に反跳痛を認めない。左の肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白 1+、糖 (-)、潜血 3+、沈渣に赤血球 15~30/1 視野、白血球 1~4/1 視野。血液所見：赤血球 460 万、Hb 14.6 g/dL、Ht 46 %、白血球 8300、血小板 22 万。血液生化学所見：総蛋白 7.1 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、総ビリルビン 1.1 mg/dL、AST 35 IU/L、ALT 32 IU/L、LD 186 IU/L (基準 176~353)、 γ -GTP 45 IU/L (基準 8~50)、尿素窒素 23 mg/dL、クレアチニン 1.2mg/dL、尿酸 8.6 mg/dL、血糖 92 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 109 mEq/L、Ca 9.2 mg/dL。CRP 1.2 mg/dL。腹部超音波検査で左水腎症、左腎結石および左尿管結石を認める。結石は腹部単純CTで白く見えるが、腹部単純X線写真ではうつらなかった。

この患者で予測される結石成分はどれか。

- a. 尿酸
- b. 炭酸カルシウム
- c. リン酸カルシウム
- d. シュウ酸カルシウム
- e. リン酸マグネシウムアンモニウム

54) 58歳の男性。PSA 高値を指摘され来院した。7年前から人間ドックで定期的にPSAを測定していたが基準値を超えたため受診した。排尿障害を認めない。直腸指診で前立腺はくるみ大、弾性硬で両葉に小結節を触知する。PSA 6.5 ng/mL (基準 4.0 以下)。骨盤部MRIのT2強調像で前立腺辺縁領域に低信号を認めるため前立腺生検を施行した。病理診断では前立腺左葉の6本中2本、右葉の6本中1本に中分化腺癌(Gleason score 4+4)を認める。骨シンチグラフィでは異常な集積を認めない。

対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a. 放射線療法
- b. 抗癌化学療法
- c. PSA 監視療法
- d. 前立腺全摘除術
- e. 分子標的薬投与

55、56) 次の文を読み、55、56の問いに答えよ。

75歳の男性。尿が出ないことと腹部の膨満感を主訴に来院した。

現病歴：2日前からくしゃみと鼻汁のため市販の総合感冒薬を内服していた。昨夜から尿が出なくなり、下腹部の膨満感と疼痛が出現した。以前から尿が出にくく残尿感があったという。

既往歴：10歳時に虫垂切除術。

生活歴：無職。妻と2人暮らし。喫煙は45歳まで20本/日を25年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長175cm、体重80kg。体温36.7℃。脈拍88/分、整。血圧120/84mmHg。呼吸数20/分。SpO₂98%(room air)。皮膚は乾燥。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腹部は緊満しており、恥骨上に圧痛を認める。

55) この患者に直腸指診を行った際の前立腺所見はどれか。

- a. 圧痛
- b. 熱感
- c. 一部が石様硬
- d. 可動性の消失
- e. 弾性硬の腫大

56) この患者に尿道カテーテルを留置する際の手順で正しいのはどれか。

- a. 清潔操作は不要である。
- b. 患者に碎石位をとってもらう。
- c. 陰茎を十分に牽引して挿入する。
- d. 留置したカテーテルは皮膚に固定しない。
- e. 挿入中に抵抗を感じたところで先端のバルーンを膨らませる。

57) 38歳男性。発熱と陰嚢痛を主訴に来院した、5日前から39℃台の発熱、悪寒、頭痛および耳前部の痛みを自覚していた。2日前から発熱と痛みは軽快していた。本日朝から左陰嚢の腫大と疼痛、下腹部および悪心を自覚している。2週間前に6歳の息子が流行性耳下腺炎と診断されていた。流行性耳下腺炎のワクチン接種歴はない。その他の疾患の既往歴に特記することはない。身長172cm、体重68kg。体温36.8℃。呼吸数16/分。頸部リンパ節は触知しないが両側顎下部に軽度の圧痛を認める。左陰嚢に軽度発赤を認める。左精巣は腫大し湯良い自発痛を認める。

診断として考えられるものはどれか。

- a. 斉唱腫瘍
- b. 急性精巣炎
- c. 精巣捻転症
- d. 壊死性筋膜炎
- e. 急性精巣上体炎

58) 61歳の男性。人間ドッグでPSA 23.0ng/mL(基準4.0以下)を指摘されて来院した。自覚症状はない。家族歴は父親が前立腺癌で死亡。直腸指診で前立腺作用に硬結を触知する。経直腸超音波検査で前立腺左葉に低エコー領域を認める。前立腺生検で8か所中2か所に低分化腺癌(Gleason score 5+4)を認める。

この患者に説明する内容として正しいのはどれか。

- a. 偶発癌である。
- b. 非上皮性腫瘍である。
- c. 遺伝的要因が疑われる。
- d. 肺と肝に転移しやすい。
- e. 直腸への播種が疑われる。

- 59) 身体診察の所見と疾患の組み合わせで正しいものはどれか。
- 筋性防御—急性膀胱炎
 - 陰嚢内腫瘍—停留精巣
 - 下腹部腫瘍—尿管結石
 - 側腹部腫瘍—鼠蹊ヘルニア
 - 肋骨脊柱角叩打痛—急性腎盂腎炎
- 60) 尿管結石の再発予防に有用なのはどれか。 2つ選べ。
- プリン体の摂取
 - ビタミンCの摂取
 - クエン酸製剤の内服
 - カルシウムの摂取制限
 - 1日2L以上の水分摂取
- 61) 79歳の男性。排尿障害を主訴に来院した。10年前から骨転移を伴う前立腺癌に対してホルモン療法を受けているが、1年前から治療に抵抗性を示している。1か月前から頻尿と残尿感を自覚していた。今朝から排尿障害と下腹部膨満感が出現したため受診した。意識は清明、身長165cm、体重63kg。体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧148/86mmHg、呼吸数16/分。下腹部に膨満を認める。血液生化学所見：尿素窒素28mg/dL、クレアチニン1.5mg/dL、Na135mEq/L、K4.6mEq/L、Cl116mEq/L。PSA15.5ng/mL（基準4.0以下）。腹部超音波検査で両側水腎症と膀胱内の大量の尿貯留を認める。
- まず行うべきなのはどれか。
- 腎瘻増設術
 - 腹部造影CT
 - 骨盤単純MRI
 - 尿管ステント留置
 - 尿道カテーテル留置
- 62) 無症候性骨転移を伴う前立腺癌にまず行うべき治療はどれか。
- PDE5<phosphodiesterase5>阻害薬投与
 - 抗癌化学療法
 - ホルモン療法
 - 経尿道的レーザー前立腺切除術
 - ロボット支援腹腔鏡下前立腺前立腺全摘除術
- 63) 59歳の男性。左腎細胞癌の診断で腎部分切除術を受け入院中である。手術2時間後にドレーンから血性の排液があり、意識レベルが低下した。JCS II-20。脈拍152/分、整。血圧56/42 mmHg。呼吸数16/分。SpO₂は測定できなかった。腹部は軽度膨満している。血液所見：赤血球218万、Hb5.0 g/dL、Ht18%、白血球9,300、血小板15万。
- 次に行うべき処置として誤っているのはどれか。
- 酸素投与
 - 赤血球輸血
 - 血小板輸血
 - 細胞外液の投与
 - ノルアドレナリン投与

64) 78歳の男性。約1か月前から断続的に生じる肉眼的血尿を主訴に来院した。排尿時痛はない。60歳時に前立腺癌に対して放射線照射を行った。喫煙歴はない。血液所見に異常を認めない。PSA値は0.01 ng/mL (基準4.0以下)。

まず行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a. 骨シンチグラフィ
- b. 腎シンチグラフィ
- c. 腹部超音波検査
- d. 膀胱鏡検査
- e. FDG-PET

65～67) 排尿記録を読み、以下の問いに答えよ。

(細かい数値は覚えてないです…2017年度のもの載せておきます。)

時間	尿量 (mL)	備考
6:00	350	起床
7:00	160	
9:20	70	
11:00	110	
13:00	80	
15:30	120	
17:10	70	
19:00	90	
20:00	100	
22:00	100	就寝
23:50	100	
0:40	100	
2:20	80	
4:30	100	
8:00	200	起床

65) 昼間尿量、夜間尿量、1日尿量、1日最大量を求めよ。

66) 夜間多尿指数を求めよ。

67) 頻尿、夜間頻尿、多尿、夜間多尿のうち、当てはまるものには○を、違うものには×をつけよ。

***雑感**

2017に直近の国試が足されたものでした。例年記述問題がありましたが、今回は無かったです。来年度より、先生の退官に伴い、泌尿器科の教室自体が一新されたみたいなので、問題は変わる可能性があります。門内には回収されました。ところどころ抜けていてすいません。

*結果発表 なし (落ちた人がいなかったから?)

*再試対象者 0名

*チュートリ: レポートあり

*出席: あり (○つけるだけ? だった気がする)

*普段の勉強: 腎臓と合わせて、『病気がみえる』がおすすめです。